

Title	金融に及ぼす大戦乱の影響（上）
Sub Title	
Author	向井, 鹿松
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1915
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.9, No.4 (1915. 4) ,p.450(86)- 463(99)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19150401-0086

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「農民一家の生計を標準」として立論せず又農民の耕地は「平均」町四反の面積なる可からず」とも述べざりしなり余は農業者及其家族にて農場内に於ける労働をなし他より労働者を雇入れず又自己の労力に餘分なきものを以て小農どなすロッシュの所論の大體に賛し本邦農家が普通栽培する作物即ち水稻大麥裸麥小麥蕎麥大豆粟蔬菜を標準となし一ヶ年農場經營に要する労働配合の状態等を考へ小農家一戸の内労働に耐ゆるもの二人半とし此労力を能く充分に利用せんとするには普通の場合に於ては少なくも耕地一町五反を要することを述べ此面積の内水田は八反畑は七反にして畑は全部水田は約四割は二毛作をなしたるものとしての計算なれば若し氣候の關係等よりして二毛作を爲し得ざる他方にては少なくも二町五反歩を小農の所要面積とすと論じたりしなり福田博士も多少の疑を以て余の所論を批評せられしが如きも氏の説く所と余の論せし所とは上述の如く幾分か其趣きを異にする所あるを以て茲に一言を述べて余の立場を明にす。

金融に及ぼす大戦亂の影響

向井慶松

金融論の大家として知られたるチャーレス、エ、コナント氏は昨冬、歐洲に於ける大戦争が將來投資資本の供給の上に及ぼす影響に付き詳細なる研究の結果を發表せられたり。此の事は多年外國資本に依頼し來りたる我國の經濟界にとりても亦参考に資すべき點少なしとせす。之れ即ち左に其の大要を紹介する所以なり。但し本論は昨年十一月に發表せられたるものなれば、本文中に於ける事實の記事に付ては讀者は其の考にて讀まれんことを望む。

歐州に於ける大戦亂が投資々本の上に及ぼす影響は吾人の知る限りに於て、或は、貯蓄、鐵道及び器械生産が經濟上に於ける重要な要素

次第なり。例之、歐州資本家が單に合衆國に對する投資を中止したる事が、かの千八百九十三年の恐慌を惹起したる主たる原因の一たりしを思はば、如何に資金の缺乏が重大なる結果を來すべきや之を推知するに難からざるなり。

露國の有名なる經濟學者、ラファアロウイツチ

となりし以後に於ける最も重大なるものなる可し。世界に於ける富の蓄積が近代に至り著しく増加したる結果、今日吾人は苟も社會に利益を興ふる事業にして起す可きものあらば之に要する資金は容易に之を求むることを得るが故に現今の經濟界にありては昔時に於けるが如く資本缺乏の爲めに生産の制限せらるゝが如き思想を有するもの殆んどなきに至れり、バジオット氏の如きは既に千八百七十三年當時尙近世金融機關の發達比較的幼稚なりし時代に於て、其著「ロムバード街」に於て此の事實に論及したり。

況んや金融機關の作用圓滑に行はるゝ現時にわりては民間の貯蓄は絶えず此の機關を通じて鐵道の建設及新工業に投せらるゝの常にして資本の缺乏に苦しむが如きことあるなし。故に苦し一朝此の資金の源泉たる民間の貯蓄涸済するか、又は其投資方向を變更したる場合には果して如何なる結果を生ずるや、之が判断に苦しむ

なり」と

如斯米國が多大の外國資本を輸入せる結果、一朝事變に際して果して如何なる影響を生じたるか。戰亂勃發の一週間前より紐育株式取引所に於ける各種有價證券の相場が俄かに低落を始

め、遂に七月三十一日午前に至り取引所閉鎖の已むなきに至りしは、之れ主として歐州資本家が政界の風雲急なるを見て其の所有せる米國有價證券の一部を同國市場に賣り放ちて以て資金を回收せんと努めたる結果に外ならず。而して其の影響は尙茲に止まらず、金貨に對する需用の増加、各銀行が其の所有金貨を提供してゴーラドペールを組織せる如き、及び爲替相場が甚だしく輸出現送點以上に騰貴せるは之れ皆外國資本家が今や米國に對する債權を取り立つるに至りたる結果たるや論を俟たざるなり。

今日に至るまで各交戦國は其必要とする多額の軍備を主として其所有現金及び銀行よりの一時的借入金によりて支辨し來りたるが、後日は等の借入金を償還する爲めに長期の公債を發行し、而して此の數十億の新軍事公債が有價證券市場に出づるに至らば投資々本の供給の上に一層大なる壓迫を加ふるに至る可し。

(五)是等の政府公債が各投資家の手許に適宜に分配せらるゝに至るには數年の長年月を要す可し、其間に金融市場は絶えず攪亂せらるるを以て鐵道及び工業會社の有價證券にして米國市場に賣却せらるゝもの非常の多額に上り、之れが爲めに米國に於て毎年投資せらる可き新資本は皆之に吸收せられ、新企業の爲めに資金を得るは極めて困難となるに至る可し。

(六)故に若し米國に於ける鐵道及び工業會社にして、今後數ヶ年の間に新たに資本を求める欲せば、須らく其有價證券の利子を高くするのみならず尙又會社の収益が利子及び配當金を充分支拂ふに足ることを投資家に示さざるべからず。

歐洲戰爭の費用

若し歐州戰爭が一ヶ年繼續するものとせば、鐵道及工業上に使用せらる可き百五十億弗の資本は全く軍事の爲めに費消（必ずしも無法の浪

吾人は先づ本論に入るに先ち所論の大綱を示さん。

(一)歐州に於ける大戰爭が約一ヶ年間繼續するものとせば、此れに要する費用は百五十億弗を下らざる可し。

(二)總ての交戦國が戰爭及び戰後に於ける跡始末のために要する費用の高は、凡ての文明國が毎年投資の爲めに蓄積する貯蓄の數倍に達すべし。

(三)經濟的利益を生することなくして消費せらるゝ此等の資金に對する莫大なる需用の結果として、有價證券に對する利子歩合は以前よりも昇騰すべし。

(四)かゝる莫大なる軍費は全く政府公債によりて募集せらるゝものなれば、其の他の目的の爲めに資金を得んとするものは政府よりも遙かに高率の利子を仕拂ふに非されば其目的を達する能はざる可し。

費とは云はざるものせらる可きを以て、戰時は勿論、戰後數年間は必ず投資々本の供給の上に重大なる影響を與ふるを免かれざる可し。

數年前巴里大學のリシェー教授は全歐州に亘る大戰亂あるものと假定し其費用を一日約五千萬弗（正確に云へば四千九百九十五萬弗）と計算したり。以上の額は伊太利及び羅馬尼が戰争に參加するものとして算出せられ、且つ戰場に赴かざる貧窮者の爲めに六百八十萬弗、破壊せられたる財產及び其他の爲めに約二百萬弗を加算したり。但し白耳義の支出額は此の中に包含せず。

戰爭の發展に伴ひ起れる諸般の事件及び其他の専門家の計算等によりて比較觀察をなすに、此のリシェー教授の計算は甚だしく大に失したるものに非ざるが如し、蓋し伊太利は此の豫期に反して中立の態度を探るに至りしと雖も、別に豫想外の白耳義及び日本が新たに戰争に參加

するあり、且つ伊太利、和蘭、瑞西、羅馬尼の諸國が皆一部又は全部の動員を行ひたるがため多大の支出を要するに至りしが故なり。

幸にして吾人は各國政府が實際支出せる軍費の大略を知るを得たるが故に事の眞想を一層明かにすることを得べし。獨逸政府が九月末に於て新公債を發行するに際し計算したる處によれば獨逸帝國の要する一日の軍費は約五百萬弗なり云ふ。然れども佛國に於ける批評家は此額を以て甚しく過少に失するものとなし、近世に於ける戦争の實例より推して平均一人一日の軍費は二弗五十仙を下ることを得ずと論じたり。獨逸參謀本部が數年前になしたる計算の如く一人の費用を一日一弗五十仙とすれば三百萬人の兵士を維持するに一日四百五十仙の割合にて計算する時は一日七百五十萬弗に上る可く、尙此の外に彈薬其他の軍需品に要する支出は一日百萬

弗を下らざる可し。

然らば佛國は如何と云ふに、十月初日に於て大藏大臣リボ一氏の談として傳ふる所によれば額は四億二千萬弗なりしと云ふ、即ち一日の平均支出は七百萬弗なり。佛國の人口は獨逸よりも少なく且つ其兵力も比較的少なきが故に佛國の失費が（其領土内於て損害を蒙むりたりと雖も）獨逸よりも少なきは明かなり。

英國に於ける大藏證券の發行高は約六千萬磅に達せり。九月十一日英國政府の發表したる處によれば、同國が實際軍事行動を開始してより以後三十五日間に政府の支出したる軍事費の額は約三千三百萬磅に上れりといふ。即ち英國政府一日の軍事費は其の時までは一日四百萬弗を上らざりしものと見るべし、されど其後印度、加奈陀及び其他の殖民地軍隊が漸次歐州に到着しつゝあるを以て、今日に於ては其の經費が右

の額以上に上り居るは明かなり。即ちかの大藏省證券の發行高の全部を既に支出し盡したるものとせば一日の經費は平均五百萬弗に近きものなる可し。

露國の戦時支出高に關しては之を知るの材料甚だ乏し。勿論兵士一人宛の戦費は獨逸に比し甚だ少額なるべしと雖も其の兵士の數極めて多きが故に總計に於ては獨逸の戦費より少なきこと恐らくなるべし。埃及に付ては亦同じく調査材料なしと雖も、其の軍備の他國に對する比例より推して、軍費の支出高を一日約五百萬弗となすは、甚だしく正鵠を失したものに非なる可し。尙此の外に自耳義が一日二百萬弗を消費しつゝあるを以て、若し吾人が以上凡てを總計する時は（中立國の動員費を計上せざるも）此度の歐州大戦争の一日に要する費用は三千六百萬弗に達するを見る可し。而して此の額に九月十一日の計算以後に於ける英國政府の支

出の増加と及び中立國の動員費を加へて一日の總計費用を四千萬弗となすは、蓋し控へ目に見積りたる額と云ふを得べし。此の割合を以てせば一ヶ年に於ける戦費は實に百四十六億の巨額に達するを見るべし。

是を以て見れば、かのリシエ一教授が、歐州大戦亂の一日の戦費として計算したる五千萬弗の額は未だ以て、戦争の爲めに、工場に於ける生産の停止、器械、鐵道其他産業及び交通上に於ける諸般の設備の破壊せらるゝより生ずる損害を償ふに足らずとなすも必ずしも不當に非ざるなり。かの現に生存せる佛國經濟學者中の泰斗として知らるゝポール・ルロワ・ボリュ一氏は十月六日佛國經濟學協會に於ける討議に際して一ヶ月に於ける戦費の總額を十二億弗なりと計算したり（即ち一ヶ年百四十四億弗なり）。同しく經濟學の大家たるギュヨー教授の計算は此の額以上に上れり。

如斯若し歐州に於ける戦争が一ヶ年間繼續するものと豫想せば、財産の破壊、生産上の損害及び分配機關の擾亂より生ずる間接の損害を除外するも、尙戦争の爲めに各國政府が直接支出する戦費の總額が百五十億弗以上に上る可き事は以上凡ての諸計算の等しく認むる所なり。而して此の額は合衆國に於ける鐵道建設の始めより千九〇六年六月三十日に至る間に布設せられたる鐵道の總價額よりも更に大なるものなり、

豈に驚く可き資本の破壊に非ずや。

以上は一ヶ年に亘る戦争費の總額を豫想したものなれどもこは、吾人が戦争が必ず一ヶ年以上繼續することを確信して、斯く豫想したるわけに非ざるなり。蓋し戦争が假りに一ヶ年を俟たずして終結するも、今日各交戦國が大規模の動員を行ひ居り、且つ今後之に要する被服、彈薬其他の軍需品は多分既に夫れ——注文濟となれるを以て、各交戦國の要する直接支出の大

するは明かなり。即ち此の種の貯蓄の外に例之鐵道會社が其鐵道の改良資金として其の収益中より控除せる貯蓄、農民が其の穀物倉庫の増築の爲めに使用する貯蓄、其他個人が寶石、美術品等の享樂物を得んがために使用する貯蓄等あれども、是等は有價證券に普通投下せらる、資本の一部として考ふることを得ざるなり。

勿論各交戦國にありては愛國心の發動よりして、建設物の改良修繕を差し控へ、或は贅澤品の購入を節して以つて政府公債に應募せんとするもの増加するに至るは自然の勢なれども、又他の一面に於ては戦争の爲めに破壊せられたる財産を補充する爲めに資本の需用増加するを以て此の種の新資本の供給の増加に對しても亦余まり多きを期待する能はざるなり。

隨つて吾人は次に専ら毎年有價證券に投下せらるゝ資本の統計に付て論すべし。自耳義に於て毎年刊行せらる、*Le Moniteur des Intérêt*

部分は其軍隊の引き上げ及び解隊を全く終りて平和の状態に立ち歸るまでは繼續すべきものと見ざる可からず。且つ戦争の爲めに中止又は破壊せられたる鐵道其他の生産機關が再び舊態に回復するまでには數ヶ月の時日を要す可し。されば戦争が假りに六七ヶ月に終るとするも、各交戦國が公債及租稅により民間より吸收する資金の高は尙百億弗を下ることなかる可し。

毎年投資せらるる資本の額

かゝる巨額の戦費が金融市場に如何なる影響を與ふべきかを知らんとするには、先づ此の百五十億弗の戦費が、投資々本として毎年貯蓄せらるゝ額に對して如何なる割合にあたるやを知らざる可らず。而して此貯蓄額を計算するに當りて先づ吾人の出發點となす可きものは、毎年新たに發行せらるゝ有價證券に投せらるゝ資本の總額なりとす。勿論此の額を以てかゝる計算の基礎となすに付ては多少考慮すべき餘地の存

*Materiels*に掲げられたる統計によれば、毎年有價證券に投せらるゝ資本の高は器械生産の發達につれて近年著しく増加し、最近數ヶ年に於ける平均は一年約四十億弗なりと云ふ。此の統計によれば千八百九十六年以前にありては全世界に於ける有價證券の新發行總額は一ヶ年二十億弗に達したること殆んどなかりき、即ち千八百九十三年に終る十ヶ年間に於ける一ヶ年の平均發行總額は十二億五千萬弗なりしが、千九百〇三年に終る十ヶ年間に於ては倍加して二十五億九千六百萬弗となり、而して千九百十三年に終る十ヶ年間にには平均四十億弗以上に昇れりと云ふ。

以上新發行高は借換したる分を含むものなれば、純増加の發行高を見るには之を控除せざる可からず、而して千八百〇六年以後に於て此の借換高が比較的減少したる事實は近年、資本に對する需用増加を示すものとして特に注目に値

するものなり。

左に千八百九十六年より千九百十三年に至る

間に於て毎年發表せられたる有價證券の發行高

を表示す。

年 次	有 價 證 券 發 行 高	總 發 行 高	借 換 高	純 增 加 發 行 高
一八九六	三、二二七、三五九、〇〇〇	一、四六五、四五一、〇〇〇	一、七六一、九〇七、〇〇〇	
一八九七	一、八五二、一七三、〇〇〇	一三二、一八二、〇〇〇	一、七一九、九九一、〇〇〇	
一八九八	二、〇三四、七六六、〇〇〇	三一六、五三〇、〇〇〇	一、七一八、二三五、〇〇〇	
一八九九	二、一七五、八二三、〇〇〇	一二〇、八七三、〇〇〇	二、〇五四、九四九、〇〇〇	
一九〇〇	二、二八九、六四二、〇〇〇	二、二八九、六四二、〇〇〇	二、二八九、六四二、〇〇〇	
一九〇一	一、九一七、九一六、〇〇〇	一、九一七、九一六、〇〇〇	一、九一七、九一六、〇〇〇	
一九〇二	三、五九七、四八九、〇〇〇	一、六三九、九二一、〇〇〇	一、九五七、五六八、〇〇〇	
一九〇三	三、五三四、二四八、〇〇〇	一、六八七、七二九、〇〇〇	一、八四六、五一九、〇〇〇	
一九〇四	二、七八五、一三八、〇〇〇	三五三、四四五、〇〇〇	二、四三一、六九三、〇〇〇	
一九〇五	三、六八八、一二四、〇〇〇	三二三、四八七、〇〇〇	三、三六四、六三七、〇〇〇	
一九〇六	五、一二六、〇一四、〇〇〇	一、九九一、五二六、〇〇〇	三、一三四、四八八、〇〇〇	
一九〇七	二、九六一、三七八、〇〇〇	四七四、〇九〇、〇〇〇	二、九一七、四七〇、〇〇〇	
一九〇八	四、〇九二、二五五、〇〇〇	六三、五四一、〇〇〇	四、〇二八、七一四、〇〇〇	
一九〇九	五、一〇一、〇〇〇、〇〇〇	六八七、七〇〇、〇〇〇	四、二六九、一一〇、〇〇〇	
一九一〇	三、七五六、九〇〇、〇〇〇	一四三、一〇〇、〇〇〇	四、四一三、三〇〇、〇〇〇	
一九一一	三、八九六、五九〇、〇〇〇	一三二、八〇〇、〇〇〇	三、六一三、八〇〇、〇〇〇	
一九一二	四、〇四三、八〇〇、〇〇〇	一八、一五〇、〇〇〇	三、七六三、七九〇、〇〇〇	
一九一三	一、一八、一五〇、〇〇〇	三、九二五、六五〇、〇〇〇		

吾人が前に論じたる今回の歐洲戰爭に要する費用を支辨するに、以上統計の示す所の毎年の貯蓄額を以てする時は、約四ヶ年間に亘る新資本の増加は全部悉く政府公債のために吸收せらるゝを以て此の間は其他の目的のために投せらる可き資本は全く金融市場に之を求むるを得ざるに至る可し。隨つて鐵道の建設改良は資本勘定を以て之を行ふ能はず、其他諸紡績會社及び自治團體が事業を擴張し、又は公益事業を起さんとせば各自の收入によるの外、他に全く資金を得るの途なきに至る可し。

勿論斯くの如きは事實あり得べからざる極端の議論なり。ことに自耳義に刊行せらるゝ前述の統計は投資せらる可き貯蓄の額としては或は過少に失するものなるべし、殊に此の事は米國報告によれば米國に於ける會社の資本金及社債の増加は千九百十一年には其高三十六億二千八

百九十一萬〇三百五十八弗にして、翌千九百十二年には四十二億五千七百〇六萬七千九十七弗に上れり。是等の高を一見すれば恰も米國に於ける資本の増加丈にても、既に前述の自耳義の統計に於て全世界の資本の増加額として掲げたるものに匹敵するが如し。されど此の國稅局長の報告せる高は之を解釋する上に於て重大なる制限を附せざる可からず。何んとなれば以上の數字は合衆國に於ける凡ての會社組織のものを包含せるが故に、其計算の二重に陥れるもの甚だ多し、即ち合衆國に於ける會社には他の會社の株式を所有することを目的として設立せられたるものあるが故に、此等の會社の株式増加は何等實際の富を増加したるものに非ざるもの故なり。加之、同じ會社と稱するものの内に上會社の形式を探れるもの甚だ多し、而してかも、内實は少數私人の組合なるに拘はらず便宜の如き人的要素に重きを置ける少數の人々に

よりて設立せらるゝ會社の資本は決して賣買の自由に行はるゝ有價證券に投資せらるゝ性質のものに非ざるが故なり。

果して然らば米國に於て毎年一般的に投資せらるゝ資本の増加を知らんと欲せば、實際自由に取引せらるゝ有價證券の額が、國稅局長によりて報告せられたる米國會社の有價證券の總額に對して如何なる割合にあたるやを知ること肝要なり。而してこは紐育株式取引所に於て正式の賣買に附せらるゝ有價證券を見れば其の大體を知ることを得べし。紐育株式取引所に於て賣買を公認せられたる有價證券の總額面價格は二百五十九億七千五百萬弗なりき(一千九百十四年二月十五日)。之に人口三萬以上の都市の發行したる市債二十五億七百萬弗(國勢調査局最近調)同取引所の取引に上らざる鐵道有價證券の一部分、多くの電氣會社、國立及州立銀行並び信託會社の株式を合算せば、吾人は米國に於て一般に於て取引に上らざる有價證券の額は約三百五十億弗乃至四百億弗を得べし。而して此の額は千九百十二年度に國稅局長に申告せられたる株券並に債券の總額九百六十四億三千七百七十四萬四千〇八十四弗に對し約五分の二に當るものなり。

而しこは正しく毎年經濟雜誌によりて報告せらるゝ大會社發行の新有價證券の高と略ば合致するものなり。是等の投資せらる可き資本中果して其の幾割か軍事公債に吸收せられ、又幾割が產業上に使行せらるゝやを研究するには資金の需給、兩方面に於ける種々の事情を觀察せざる可からず。既に吾人が前に指摘したるが如く佛蘭西、英國及び獨逸の諸國に於ける農民、職人及び小商人にして平素各自に通貨を貯藏し、又は其他の方法にて貯蓄をなせるものあり。而して是等の資金は通常の場合にありては鐵道其他工業會社の株式又は社債に投せらるゝものに非ざれども、今回の事變に際しては各國に於ける愛國心の發動は彼等を驅りて此の種の貯蓄を以て政府公債に應募せしむるに至らしむるは勿論、更に進んで耕地、諸道具及び店舗の改良擴張の爲めに費やすべき資本をも、公債の應募又は租稅の仕拂

的に取引せられつゝある有價證券の總額としてせんとするに際し考ふ可きことは、勿論以上の四百億弗の有價證券の如き、取引の自由に行はるゝ株式又は社債を發行する會社の資本の増加は、恐らくかの一般金融市場に於ける利子歩合によりて左右せらるゝこと比較的少なき人々の關係せるに會社と同一なる能はさるは事實なれども、假りに是等の嚴密なる意味に於て取引の活潑に行はるゝ有價證券が凡ての株式及び債券と同一の割合にて増加するものとせば合衆國に於て取引の自由に行はるゝ此の種有價證券の毎年増加額は約十六億弗に達する計算となる。

として政府に納付する額蓋し鮮少ならざる可し之を以て見れば是等諸種の方面より新たに投資せらる可き資金として市場に出づる額極めて多額に上る可し。

更に他方に於て是等の投資々本の全部が悉く新發行の公債に投せらるべしとは又斷定する能はざるなり。例之、需用増加の爲め工場擴張の必要ある時、特に戰爭の慘禍を蒙らざる地方に於て、人口の増加より生ずる需用増加等の如き産業の必然的發達に伴ふ爲めに新たに有價證券を發行する場合に於ては國債以外の此等の證券に投資せらるるもの多額に上る可し。而して此の事たるや會社の株式が設立當初の所有者の手に存する場合には彼等は市場に於ける利子歩合よりも事業より直接生ずる利潤に重を置くが故に特に然りとなす。

現今戰場に於て數十億の富を硝煙と化しつゝある各交戰國が争ひて其の資金を全世界に於け

る貯蓄に求むるに至らば、かの常に多額の資金を必要とする鐵道會社が此の間に立ちて果して幾何の資金を奪取し得るや興味ある問題なるべし。蓋し是等の會社は只供給せらる可き資金の一小部分を得んが爲めに一般金融市場に於て各國政府を相手として競争せざる可からざる地位に立つが故なり。

此と關聯して吾人の看過すべからざるは戰爭の結果歐洲大部分に於ける投資々本の蓄積が全く中絶したる事實是なり。若戰争にして早く終結し交戦に從事せる人士が再び産業に從事するに至らば生産の回復に重大なる刺戟を與へ且つ貯蓄も亦大に増加すべしと雖も、他方に於ては白耳義及び北部佛蘭西其他敵國の蹂躪に委せられたる地方の織物其他の主たる工業を舊態に回復するには多少の時日と多大の費用を要するは又注意すべき處なり。

既に交戰列國は現状の下に借入れ得べき資金を一般公衆より求むるに至れり。これ戰爭當時政府の有したる資金は直ちに消費せられ、又は少なくとも他に資金を求めるを得ざるに至りたる結果なり。獨逸は既に十億弗以上の公債を發行し、其の半額は既に拂込を終りたりと傳へらる。如何なる方法、形式によりて拂込をなしたるや其の詳細を知るを得ずと雖も多分大多數の應募者は帝國銀行其他特種の貸付銀行に就きたる手段方法は政府が資金を求むる上に於自己所有の他の有價證券を擔保として以て拂込に要する資金を得たるものなる可し。

かかる手段方法は終極の投資家の間に適法を以てする時は公債は終極の投資家の間に適宜に分配せらるゝことなくして一時中間者の手に止まる可し。隨つてかかる方法によりて拂込をなしたる有價證券は將來依然金融市場に對する負擔となるものと見ざる可からず。

是れ迄英國は六千萬鎊の大歲省證券を發行し

佛國亦國防公債を一般公衆より募集したれども其金融市場に加へたる壓迫の程度は獨逸の如く甚しきものに非らざりき。英國に發行せられたるものには短期證券にして其の大部分は銀行の手に入りたるものなり。佛國に於て募集したる公債も亦四千五百萬弗を超ゑざるものゝ如し。獨逸及び佛蘭西又或る程度に於ては英國に於ても政府の要したる軍事費は中央銀行が一部分其の紙幣を増發して之を政府に貸し上げたるものなり。即ち獨、佛兩國に於ては開戰後直ちに中央銀行が多額の紙幣の増發することを認許し、且つ英國にありても英蘭銀行の紙幣に對する或る種の制限は多少緩和せられる所あり。

されど此の種の紙幣の増發は或る程度を超ゆれば必ず經濟界を攪亂し不良の影響を生ずるものなるを以て、かゝる亂暴なる行動は危急の場合に非ざれば今日の獨佛に於けるが如き賢明な財政家の取てせざる處なるべし。之を要するに軍資調達の爲めに此の種の短期借入の形式を用ゆるも軍費支辨の爲めに要する資本の額には結局さしたる影響を及ぼすものに非ざるなり。

リカルド分配論特に地代論の研究 (一)

島文獸

緒論

- 一、リ氏分配論と價值論との關係
- 二、リ氏分配論と交換論との關係
- 三、リ氏の所得は所謂社會階級所得なり

本論

- 第一章 リ氏地代論の叙述
- 第二節 地代の意義
- 第三節 地代の發生と其高低
- 第四節 獨占的地代一名絕對的地代
- 第五節 地代と農業の進歩改良